

## 経営者への活きた言葉

### 国内生産の条件はさらに悪化する 野口 悠紀雄(早稲田大学ファイナンス総合研究所顧問)

1. 産業界では「円高のために国内生産が困難になっている」という声が強い。しかし、現在の為替レートが異常であるのではなく、日本企業の競争力が低下しただけのことである。「異常な円高」というのは、いつか再び円安になることを期待しての認識だ。しかし、そうしたことにはならない。今後、円が高値を更新するたびに介入が行われるだろうが、円高への<sup>スウェイ</sup>趨勢を食い止めることはできない。投機筋に利益を与えるだけの結果に終わるだろう。抵抗するのではなく、円高を所与として、それに対応することが必要である。
2. 製造業にとって、もう一つの深刻な問題がある。それは電力問題だ。まず、今夏の電力不足がある。自発的な節電努力だけでは対応できず、昨年より強い節電策が必要になる可能性が強い。これは産業活動を大きく束縛するだろう。また、休日の変更による託児コストの上昇など、目に見えないコスト上昇もあるだろう。さらに、電気料金の値上げがある。
3. 以上のどれをとっても製造業に有利な条件はない。製造業の環境はさらに悪化し、それに対応するために生産拠点の海外移転が続くだろう。これによって国内の雇用は減少するので円高と高い電気料金に対応できる産業構造の構築が急務だ。脱原発は、新産業創出とセットで考える必要がある。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2012年5月26日号)

## 人事・労務について

### 組織公平の4つの尺度

1. 「当社は公平な組織か」「うちの上司は公平であるか」ということが、従業員や部下のメンタルヘルス(心の健康)に大きな影響を与えることが多くの研究で分かってきた。「平等」という言葉もあるが、「公平」とは少々異なる。公平とは、「みんなが納得できる不平等」である。
2. 組織における公平性、つまり「組織公平性」には4つの尺度がある。
  - ①分配の公正性(報酬・人事・業務内容などの分配が公平である)、
  - ②手続きの公平性(報酬・人事・業務内容などの決め方の手続きが公平であるか)、
  - ③情報の公平性(業務に関する情報を公平に伝達できるか)、
  - ④対人関係の公平性(従業員がお互いの人格を尊重し、公平な対人関係が結べているか)。

(参考:「日経ビジネス」:2012年5月14日号)